

本時のねらい

- ・素早く視線を移動させて、対象物を見ることができる。
- ・対象物をよく見て、視線をそらさずに目で追うことができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・ビジョントレーニング動画を学習者用端末に配信することで、児童自身が自分に適した動画を選んで活動を行うことができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Microsoft Stream
- ・SKYMENU Cloud

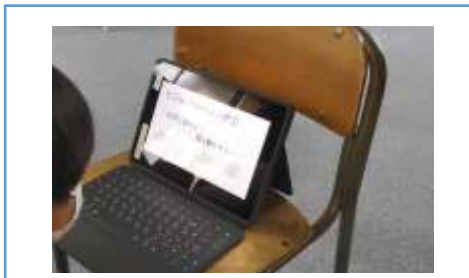
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを確認する。 「動画を使ってビジョントレーニングをしよう！」 ○ビジョントレーニングの方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SKYMENU Cloud 電子連絡板にビジョントレーニング動画を配信しておく。
展開 (30 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ビジョントレーニングをする。 跳躍性眼球運動 ・矢印の向きを目で追う。 ・数字や動物のイラストの位置を目で追う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の眼球運動のレベルに合わせた動画を複数作成している。 ○10 分ごとに休憩をとり、ストレッチをしたり、他の活動を入れたりした。 ○児童が興味のある動物・昆虫を動画に登場させて意欲を喚起している。
	<ul style="list-style-type: none"> 追従性眼球運動 ・ボールや昆虫のイラストの動きを目で追う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のふりかえりをする。 	
まとめ (5 分)		<ul style="list-style-type: none"> ○ビジョントレーニングを継続する意欲につながるように声かけをした。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】学習のねらいを確認している様子。



【写真 2】動画を視聴しながら、跳躍性眼球運動をしている様子。



【写真 3】動画を視聴しながら、追従性眼球運動をしている様子。

児童生徒の反応や変容

- ・他の自立活動の際にもビジョントレーニングの時間を設定し、継続してトレーニングをすることで、児童が眼球運動に関して自信をつけている姿が見られた。
- ・児童の興味のある虫（だんごむし等）を動画に入れることで、新作ビジョントレーニング動画ができるのを楽しみにしている様子が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ビジョントレーニング動画について、企画担当（全体の構成など）・スライド作成担当・録画収録担当・アップロード担当など、役割分担をして作成した。役割分担をすることで、短い期間で一定の質を保った動画を作成する仕組みができた。
- ・当該の支援学級担任以外の教師も、状況に応じて（すき間時間・帰りの時間など）、ビジョントレーニング動画を活用することができた。
- ・学習者用端末に配信したビジョントレーニング動画を、家庭学習でも活用することができた。